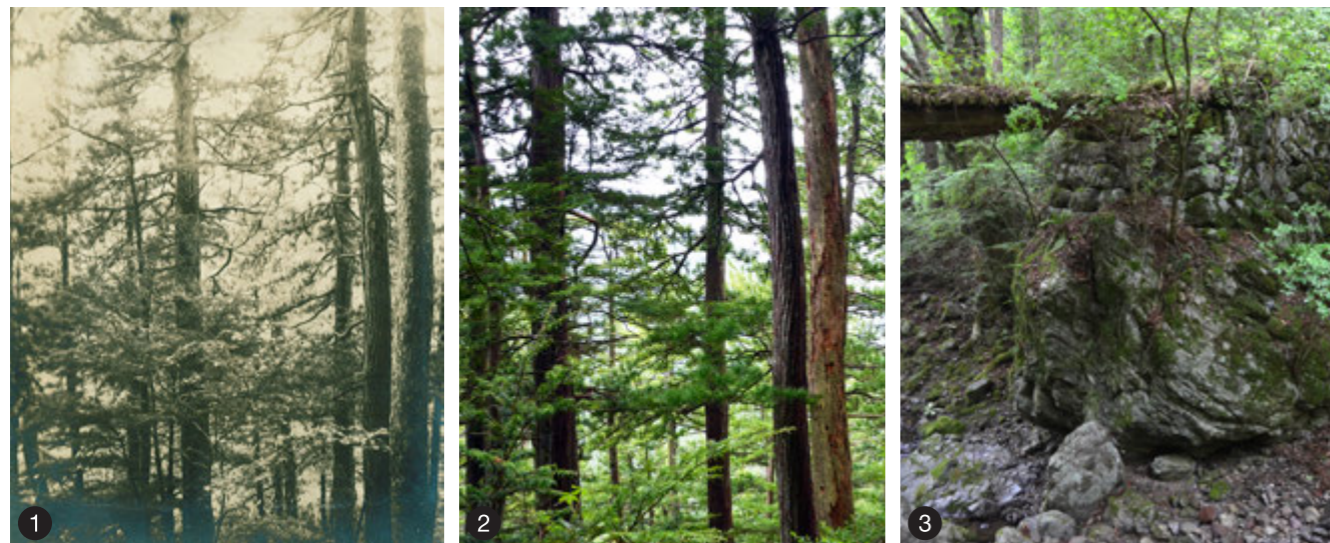


小筋畝山コウヤマキ 林木遺伝資源保存林

当保護林は不入山の麓にあり、江戸時代までお留め山として伐採が禁止されていたため、コウヤマキの原生林が残されています。コウヤマキの樹姿は美しく、ヒマラヤスギ、ナンヨウスギとともに世界の三大庭園樹として賞賛されています。尾根付近に生えることが多く、登山道沿いに広がるコウヤマキの純林は、訪れる人を自然の大庭園へと誘います。



①昭和初期の保護林内の様子。当時からコウヤマキの原生林であったことが分かります。②現在(平成24年)のコウヤマキ林。昭和初期の状態を留めており、コウヤマキを中心に豊かな生態系が作られています。③森林鉄道跡。四万十川裏源流として知られる不入溪谷では、昭和38年まで森林鉄道により原木を運搬していました。保護林内にもその遺跡が残されています。④コウヤマキの巨木。樹高が約40m、胸高直径137cmあり、世界有数の大きさを誇ります。